

# オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第77号

2016年4月28日

<http://www.australianstudies.jp/>

## 1. オーストラリア学会 2016年度全国研究大会のご案内

開催日：2016年6月11日（土）・12日（日）

会場：和歌山大学（〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷 930）

\*交通アクセス・キャンパス案内、ならびにホテルの案内は4～5ページをご参照ください。

### □第1日目 6月11日（土）

10:00～12:30 理事会（経済学部南棟1階107）

13:00 受付開始（観光学部棟2階T101多目的ホール）

13:30 開催セレモニー（観光学部棟T101）

司会 永野隆行（オーストラリア学会副代表理事・獨協大学）

開会挨拶 福嶋輝彦（オーストラリア学会代表理事・防衛大学校）

開催校挨拶 藤田武弘（和歌山大学観光学部長・国際観光学研究センター長）

オーストラリア大使館・豪日交流基金よりご挨拶

14:00～14:45 特別講演（豪日交流基金助成）（観光学部棟T101）\*同時通訳あり

#### **“Indigenous Australia in the British Museum: Things, People and Histories in Transit”**

マリア・ニュージェント

（東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授）

15:00～17:30 豪日交流基金助成シンポジウムI（観光学部棟T101）\*同時通訳あり

#### **「オーストラリアにおけるツーリズムの諸相：**

#### **アイデンティティの表現と文化交流をめぐる可能性と課題」**

コーディネータ：吉田道代（和歌山大学）

司会：東悦子（和歌山大学）

報告者：加藤久美（和歌山大学）“Our whales in our waters: Australia’s transition from whaling to whale watching”

フレヤ・ヒギンズ=ディスビオルス（南オーストラリア大学）“Encounters at a sharp cultural interface: The case of Indigenous Australian tourism”

吉田道代（和歌山大学）「シドニーのLGBT ツーリズム—ゲイ・アンド・レズビアン・マルディグラに焦点を当てて」

討論者：永井隼人（和歌山大学）

質疑応答

18:00～19:30 懇親会（大学会館第1生協食堂）

### □第2日目 6月12日（日）

9:15 受付開始（観光学部棟2階T101多目的ホール）

9:30～11:15 一般個別研究報告・テーマセッション

9:30～11:15 第一分科会（経済学部講義棟1階E103）

10:00～11:15 第二分科会（経済学部講義棟1階E104）

11:25～12:00 特別企画1：「父、藤井富太郎に見る、オーストラリアと日本とのかかわり：『最後の真珠貝ダイバー 藤井富太郎』の出版にあたって」（経済学部講義棟1階E102）

11:30～12:50 特別企画2：写真展（附属図書館3階 紀州経済史文化史研究所展示室）

「村上安吉（1880～1944）のライフストーリー：濠洲から郷里和歌山の母に送った写真をとおして」

\*津田睦美（写真作家・成安造形大学教授）先生によるツアー（第1回 11:30～11:50、第2回 12:30～12:50）を開催（所要時間約20分）。\*\*紀州経済史文化史研究所展示室の開所時間は11日（土）10:00～17:00、12日（日）はツアー時間以外未定。

12:00～13:00 昼食休憩（経済学部講義棟1階 E105・ラウンジ）／理事会（経済学部南棟1階 107）

13:15～13:45 総会（観光学部棟 T101）

14:00～16:30 豪日交流基金助成シンポジウムII（観光学部棟 T101）\*同時通訳あり

『境界』を越える人びと：豪北部海域における人の移動と境界管理

コーディネータ（司会）：鎌田真弓（名古屋商科大学）

報告者：永田由利子（クィーンズランド大学）“Okinawan Contract Labourers in the Pearl-shell industry in Torres Strait: 1958-1961”

ナターシャ・ステイシー（チャールズ・ダーウィン大学）“Transboundary small-scale fisheries in the Timor and Arafura Seas region of Northern Australia”

飯笹佐代子（青山学院大学）「密航という選択—ポートピープルと境界」

討論者：村上雄一（福島大学）、長津一史（東洋大学）

質疑応答

16:30 閉会挨拶

- ◆ 出欠：全国研究大会参加の有無にかかわらず、同封の返信用はがきに必要な事項をお書き込みのうえ、**5月31日（火）**までに届くようにご投函ください。
  - ◆ 昼食：会場付近の飲食施設は非常に限られています。キャンパス内では、11日（土）には学生食堂（第一食堂）が11時から13時30分まで営業しております。12日（日）にはキャンパス内の食堂は営業しませんので、事前に弁当の注文を受け付けます。費用は、大会当日受付にてお支払いください。注文は、必ず同封の返信用はがきでお知らせくださるようお願いいたします。
  - ◆ 懇親会：懇親会費は5,000円（学生会員4,000円）を予定していますが、多少変動することがあるかもしれませんので、その節はご容赦ください。懇親会費は当日大会受付で申し受けます。なお、懇親会への参加は、必ず同封の返信用はがきでお知らせくださるようお願いいたします。
- \*プログラム等は変更される可能性があります。また、本大会開催（特別講演、シンポジウムI、シンポジウムII）にあたってオーストラリア大使館・豪日交流基金よりご支援をいただいております。



## 2. 2016年度オーストラリア学会特別講演・シンポジウム・特別企画概要

### 特別講演

**Indigenous Australia in the British Museum : Things, people and histories in transit**

**Dr. Maria Nugent**

2015-16 Visiting Professor of Australian Studies, University of Tokyo

Australian Centre for Indigenous History, School of History, RISS

ANU College of Arts and Social Sciences, The Australian National University

Last year, the British Museum in London staged a landmark exhibition, Indigenous Australia: Enduring Civilisation. The exhibition presented the deep history of Indigenous Australia through the Museum's extensive collections of Aboriginal and Torres Strait Islander objects complemented by some contemporary

artworks. Ongoing sensitivities about the ways in which the Museum's collections were acquired during the colonial period contributed to repeated calls for the return of certain items. Other Indigenous spokespeople took a different view. They stressed the value of museum collections for recuperating diverse histories of Indigenous people, including earlier visionary engagements with Britain and the world. This paper uses the exhibition and the issues it raised to reflect more broadly on things, people and histories in transit.

### シンポジウムⅠ 「オーストラリアにおけるツーリズムの諸相： アイデンティティの表現と文化交流をめぐる可能性と課題」

多くの先進国で経済活動の中心が農業・工業からサービス業に移行するのに伴い、ツーリズム（観光）はオーストラリアにおいて重要な産業として成長・拡大し、多様化してきた。このようなオーストラリアのツーリズムの中で、本シンポジウムでは、民族性やセクシュアリティ、環境イデオロギーに根ざしたアイデンティティや文化と関わるツーリズムに焦点を当てる。このようなアイデンティティや文化がツーリズムにおいてどのように表現されるのか、そして、異なるアイデンティティや文化を持つ人々の間でのツーリズムを通じた交流は、これらの人々の相互理解を促しうるのか。その可能性と課題について、オーストラリアから先住民ツーリズム研究の第一人者であるフレヤ・ヒギンズ＝ディスピオルス博士を迎え、ツーリズム研究を専門とする報告者・討論者とともに、考察・検討する。

### シンポジウムⅡ 「境界」を越える人びと：豪北部海域における人の移動と境界管理

東南アジアとオセアニアをつなぐ豪北部の海域は、豊かな漁場であり、交易のルートであり、人びとが行き交う場であった。ナマコをめぐるマカサンとアポリジニの交易や、真珠貝漁における日本人ダイバーの活躍など、アジア系の人びとの越境移動は、オーストラリア史的一幕として良く知られる。他方、アジア系契約労働者の入国管理や日本船のアラフラ出漁、近年のいわゆる「ボートピープル」問題やインドネシア漁民による不法操業取締など、オーストラリアにとって当該海域は「不法侵入」を阻止する場であり、この地域での境界管理は重要な政治課題として認識されてきた。

本シンポジウムでは、移動する側の観点から「境界」を捉え直し、豪北部海域を分断する「境界」の様態を歴史的・複眼的に考察するとともに、それらの移動がしばしば「非合法的越境」に転化される過程を実証的に描き出す。また、本シンポジウムの報告者・討論者はオーストラリア研究者とインドネシア研究者から構成され、地域研究としての「オーストラリア研究」の相対化を試みるものである。

### 特別企画1 「父、藤井富太郎に見る、オーストラリアと日本とのかかわり： 『最後の真珠貝ダイバー 藤井富太郎』の出版にあたって」

本企画は、『最後の真珠貝ダイバー 藤井富太郎』（青木麻衣子・松本博之・伊井義人共訳）の出版にあたり、オーストラリア・木曜島から、原著者であるリンダ・マイリー（Ms Linda Miley）さん、および本書の主人公である藤井富太郎氏のご家族をお招きし、トレス海峡における真珠貝産業の歴史やそのなかでの日本人とのかかわりを、個人の思い出を交えつつ紹介する。藤井富太郎氏は、戦前戦後に木曜島を舞台に真珠貝ダイバーとして活躍し、晩年は、同地で若くして亡くなった700以上の日本人の墓を管理するなど、常に日本とのかかわりを持ち続けてきた。その功績から、1978年には、勲六等瑞宝単光賞を授与されている。また、司馬遼太郎『木曜島の夜会』にも、主人公「藤井富三郎」として登場する。本企画では、富太郎氏の長男アキラさん、長女タマヨさん、次女チオミさんら家族から、富太郎氏との思い出や日本とのかかわりをお話いただく。

### 特別企画2 写真展「村上安吉（1880-1944）のライフストーリー： 濠洲から郷里と歌山の母に送った写真をとおして」

戦前オーストラリアに移民した村上安吉のライフストーリーを、村上の三女、南ヤス子氏が所蔵する未公開写真コレクションを中心に、各種資料、証言映像を添えて紹介する。

村上は、串本町田並生まれ、1910年あたりからブルーム、ダーウィンで、日本人コミュニティのリーダー（日本人会会長）として活躍した人で、堪能な英語と温かな性格から、現地では「あらゆる人種と友好的につきあえる人物」と称された。また、営業写真師、潜水システムの発明家、ベンチャー企業家（養殖真珠）といった

多彩な顔を持ち、今日、ANUの“Australian Dictionary of Biography”に記載されている数少ない日本人のひとりである。

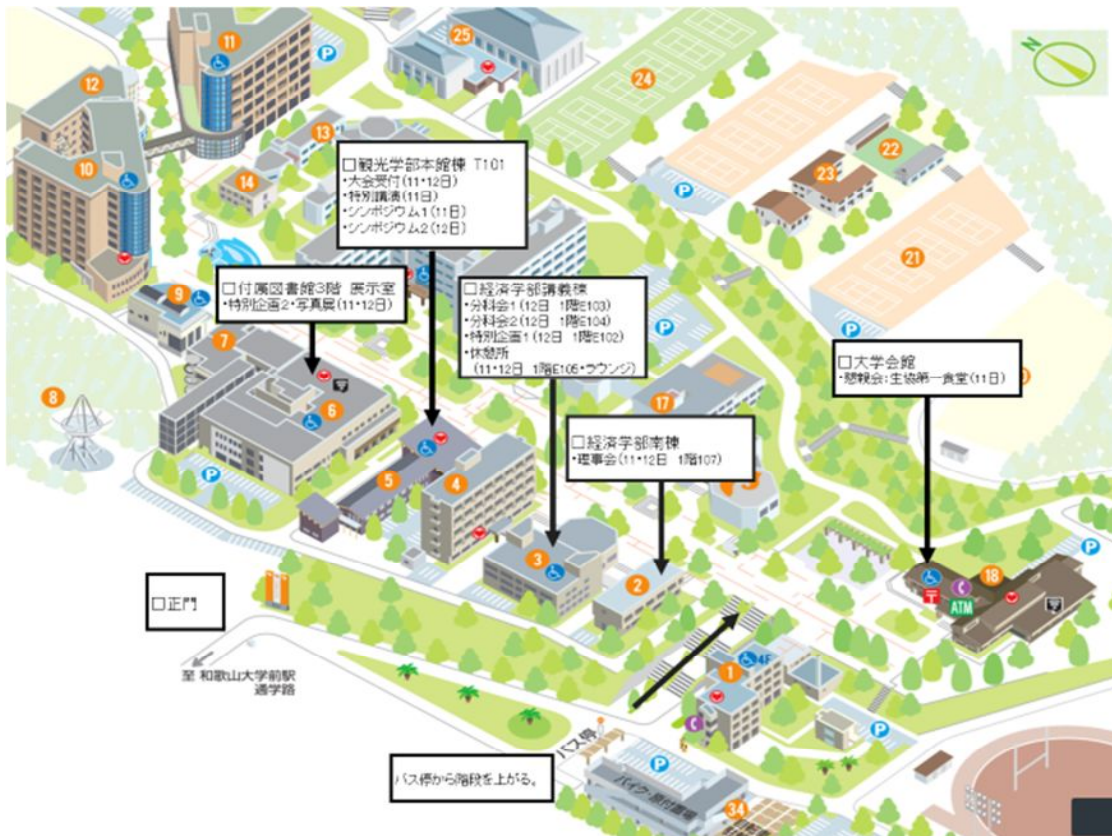
1944年、敵性外国人として抑留されていたタツラ収容所で病死。不運な時代に翻弄され、その業績が報われることなく、和歌山でもほとんど語られてこなかった村上安吉のことを、本展をとおして少しでも多くの方に知ってもらいたいと願っている。

### 3. オーストラリア学会第27回全国研究大会 会場のご案内

#### 交通アクセス

- 大学へのアクセスについては大学HP「交通アクセス」(<https://www.wakayama-u.ac.jp/about/access.html>)をご覧ください。
- 伊丹空港から南海電鉄「和歌山大学前」駅・「和歌山市」駅、JR「和歌山」駅へ向かう場合には、それぞれ難波駅行(南海電鉄「難波」駅前に停車)、天王寺行(JR「天王寺」駅前に停車)のリムジンバスをご利用いただくのが便利です。
- 南海本線では、「特急サザン」(30分に1本、指定席以外は特急券の別途購入不要)が、「和歌山大学前」駅と「和歌山市」駅に停車します。
- 南海電鉄「和歌山市」駅発の和歌山大学行バスもありますが、本数が少ないので注意してください。JR「和歌山」駅から和歌山大学に行く際には、バス(所要時間約30分)が便利です。
- 南海電鉄「和歌山大学前」駅、「和歌山市」駅、JR「和歌山」駅と和歌山大学間のバスの発車時刻については、大学HP「交通アクセス」で紹介されているWebアプリ「和夫発着バス時刻案内」をご利用になります。スマホの方はご活用ください。
- 南海電鉄「和歌山大学前」駅からは徒歩で大学まで到達できます(約20分)。

#### キャンパス案内



## 宿泊施設

会場までの交通の便が良いのは、JR「和歌山」駅周辺および南海電鉄「和歌山市」駅周辺の宿泊施設となります。宿泊施設は各自ご手配ください。

### <JR 和歌山駅周辺ホテル>

- ・ドリーミン Premium 和歌山
- ・ホテルグランヴィア和歌山
- ・コンフォートホテル和歌山
- ・東横イン JR 和歌山駅東口

### <南海電鉄和歌山市駅周辺ホテル>

- ・ダイワロイネット和歌山
- ・アパホテル和歌山

## 4. 2016 年度オーストラリア学会全国研究大会 一般個別研究報告者および報告要旨

### 第 1 分科会：(9:30~11:15 経済学部講義棟 1 階 E103)

司会 塩原良和

(報告1)「シドニー大都市圏におけるエスニックグループ別のセグリゲーション」

堤純(筑波大学)

(要旨)本稿はシドニー大都市圏を対象に、主要なエスニックグループの増加プロセス、住み分けの状況、および社会経済的な特徴を把握した。使用したデータは、国勢調査のカスタマイズデータである。増加の著しいアラビア語系やヴェトナム語系住民などは、低所得者の多い地域に集中する傾向にある。一方、標準中国語や広東語を話す人口は、低所得者の多い地域のみならず、高所得者の多い地区にも相当数が進出していることがわかった。

(報告2)「生殖補助医療によって生まれた子の出自を知る権利を巡る課題—オーストラリア・ビクトリア州の事例をもとに—」

南貴子(和歌山県立医科大学医学部)

(要旨)オーストラリア・ビクトリア州では 1984 年に世界に先駆けて生殖補助医療を包括的に規制する法律が施行され、生殖補助医療によって生まれた子の出自を知る権利が認められることとなった。その後も法改正が重ねられ、子がドナーについて知る権利の拡充が図られてきた。本報告では、2015 年 11 月にビクトリア州議会に上程された改正法案を中心に生殖補助医療の制度に関する最新の動向を分析し、ビクトリア州の事例を通して、子の出自を知る権利を巡る課題について明らかにする。

(報告3)「東ティモール軍事併合問題とフレーザー政権の外交政策」

木村友彦

(要旨)本報告は、隣国インドネシアのスハルト政権が東ティモールの軍事併合政策を進めた問題に際してのフレーザー政権期のオーストラリア外交について、政権発足から併合を承認した 1978 年までを対象に考察する。そして外交政策決定の特徴や資料的問題などにも触れた上で、フレーザー政権がインドネシアとの関係を重視し問題の根本的解決は放棄しながらも、国内世論なども意識し東ティモールの民族自決権を支持する政策も続けようとしたことを考察する。

### 第 2 分科会：(10:00~11:15 経済学部講義棟 1 階 E104)

司会 村上雄一

(報告1)「オーストラリアと日本の先住民族政策—文化享有権分野における自決権保障」

宮崎紗織(大阪大学大学院 国際公共政策研究科 博士後期課程)

(要旨)オーストラリア及び日本の先住民族の人権状況につき、先住民族の自決権保障の観点から両国の先住民族政策を比較し、国際人権法に照らして分析を行う。分析に当たっては、特に文化享有権分野に焦点を当て、条約、国内法、国際人権機関の勧告、政府報告書を中心に扱う予定である。政策の比較を通じて、今後日本における先住民族政策の在り方に関する示唆にはどのようなものがあるかを検討する。

## (報告2)「生活給付金の現金化のプロセス—中央砂漠のアボリジニの事例から」

平野智佳子(神戸大学大学院国際文化学研究科)

(要旨)中央砂漠のアボリジニ社会が抱える飲酒問題、その要因の一つとして、生活給付金が酒の資金源となつていと指摘されてきた。2007年、北部準州緊急措置法では生活給付金に様々な制限が課せられ、酒は買えなくなった。ところが、今も生活給付金は酒の資金源であり続けている。発表者の調査地でも生活給付金は現金へ、そして酒となって消えていく。本発表では、生活給付金の現金化のプロセスに着目し、そこから現金化を可能にするモノやヒトの相互作用を明らかにする。

## 5. 第22回地域研究会(関西例会)報告

吉田道代

2016年3月5(土)14:00~17:00に追手門学院大阪梅田サテライトにおいて、①加藤久美氏(和歌山大学教授)による「オーストラリアの捕鯨の歴史」、②サイモン・ワーン氏(和歌山大学特任助教・映像作家)による「太地町の伝統文化」の報告があった。加藤氏は、オーストラリアのメディアにおける鯨の表象が、神話的存在から野獣へ、そして母なる自然の象徴としての(したがって保護すべき)存在に変遷する過程を説明した。ワーン氏は、日本の捕鯨に対する西洋の姿勢を明らかにし、太地町を中心とする捕鯨の歴史とその文化遺産としての価値について報告した。発表時間はそれぞれ質疑応答を含めて1時間、その後1時間にわたる活発な総合討論が行われた。参加者は21名。

## 6. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2016年5月に年会費を納入しても、2015年度未払いの場合、それは2015年度の会費となります。すなわち、2016年度は未納ということになります。また2014、2015年度未払いの場合、2014年度分の会費納入になります。

<2015年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分(2016年度を含め最多3か年)を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』(現在2016年3月発行、第29号)までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局(アカデミーセンター)にご連絡ください。

## 7. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けておりますが、次の30号の締め切りは2016年8月31日です。29号・30号に掲載された論文は「第2回オーストラリア学会優秀論文賞」の対象となりますので、奮って投稿してください。投稿要領については、学会ウェブサイト、もしくは29号(2016年3月刊行予定)掲載の「投稿要領」をご覧ください。

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2016年10月30日です。編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだCDもしくはUSB)をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先: 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会担当

TEL: 03-5937-0249, FAX: 03-3368-2822, Email: [asaj-post@bunken.co.jp](mailto:asaj-post@bunken.co.jp)

## 8. 新刊書のご案内

村井吉敬・内海愛子・飯笹佐代子 編著 『海境を越える人びと—真珠とナマコとアラ  
フラ海』 コモンズ刊 (2016年4月刊行予定 A5判/320ページ/本体3200円+税)

\*日本・オーストラリア・インドネシアの間の海域では、真珠やナマコなどをめぐって国家の枠にとらわれず人びとが移動してきた。アラフラ海を中心に19世紀半ばから現代に至るヒトとモノの交流・交易史。豪日交流基金の出版助成対象。

### 【諸届出/連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当  
TEL: 03-5937-0249 FAX: 03-3368-2822 Email: asaj-post@bunken.co.jp

### 【オーストラリア学会事務局】

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル 同志社大学政策学部 川口章研究室気付  
TEL: 075-251-3469 E-mail: akawaguc@mail.doshisha.ac.jp  
会費振込先: 00190-3-157063 加入口座名: オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当: 村上雄一 (福島大学) / 編集協力: 濱野健 (北九州市立大学)・藤岡伸明 (法政大学)]